

第91回実践勉強会 実施レポート

日時：平成30年1月16日(火)20時

場所：大田文化の森 5階 多目的室

演者：さいたま赤十字病院 腎臓内科 副部長 佐藤 順一 先生

演題：「薬剤性腎障害と薬剤師の関わりについて」

共催 久光製薬株式会社

参加者 110名

質問：

高齢者で高血圧の患者さん（ARB+利尿剤使用）

風邪をひいて熱がある場合は相当気をつけないといけないと先生はお考えなのでしょうか。

答え：

多くの医師はARBやACEIの使い方がたぶん間違っていると思います。

蛋白尿の無い患者にARBやACEIを使うと、輸出細動脈を開かせてしまうので、糸球体濾過量が落ちる、クレアチンが上がる、腎血流量が下がることが起きてきます。製薬メーカーがARBやACEIは腎保護作用があるといっている、クレアチンが少し上がっているというのは腎臓を守ってくれる為にARBやACEIが必要なのだと思っている方が多いので安易に処方しているのが実情です。

蛋白尿が無い高齢者は糸球体内圧が非常に低くなっています。その人にARBやACEIを投与することは、基本的にはダメです。高血圧のガイドラインをみると、蛋白尿が無い患者は医者に任せましようと考えられています。これは製薬会社に配慮しているからそういう記載になっていると考えられます。だが腎臓を診ている医師は、禁忌ではないが慎重投与だということはわかっています。しかし、実地医科の医師はMRに言われてまともに信じて処方しているから、クレアチン0.5、eGFR90 近くあり出しても大丈夫だろうと思い処方すると、いきなり腎障害が起きてしまうから非常に気をつけないとはいけません。

基本的に私はARB、ACEIあるいはNSAIDsを処方する場合もそうですが、糖尿病で感染を起したときは、いわゆるシックデイルールがあります。それと一緒に風邪をひいたり、少し食欲が落ちている時はARB、ACEIを一時投与やめ、必ず診察に来るように患者に話しています。理由は、患者の多くは医師に処方してもらった薬は絶対に飲まなければならないと思っています。血圧が低いにもかかわらず平気で飲んでしまう。なので、患者には風邪をひいたり、水も飲めなかったり、食欲が無かったり、血圧を測ったらいつもより低い状態だったら必ず診察に来てくださいと伝えてあります。それは薬剤師の先生方がお話ししても問題ないことですので、シックデイルールというようなものを頭に入れておきながら、薬剤指導をすることが非常に大切だと思います。

質問：

ノルスパンテープのEラーニングにより処方のハードルが高いのではないかと。

答え：

2週間処方がデメリットです。透析を主にやっている腎臓内科医は、透析処方が2週間なので大変ではないです。しかし、外来で2週間毎に来させるのは患者自体に負担がかかるので、メーカーになんとかしてもらいたい点があります。Eラーニングをしないと出せないほど危険な薬剤かと言われると、ガイドラインからみても危険ではありません。

せん。E ラーニングをしなくても処方出来るようにしてほしいというのが我々からメーカーへの要望ですが、なかなか難しいことだと聞いています。ブプレノルフィン坐薬で乱用があるため、乱用されては困るとの観点から厳重に管理が必要ということで安易に処方が出ないようにしているとのことです。

AKI を起さないようにして(透析はお金がかかるので)それを防ぐという意味で、ノルspanテープのような腎機能障害を気にせずに気軽に処方できる状況があれば、我々処方医としてはありがたいです。

質問3：

湿布(モーラステープ L40mg)を8枚程度貼ると内服を飲んでいるのと同じと以前聞いたことがあるが、NSAIDs 貼付剤で腎障害が起こることにはあるのでしょうか。

答え：

理論的には起こる可能性はあります。

ゼロではないので AKI になりやすい人は、湿布貼付後に何も起こらないのではなく、ARB、ACEI 服用+高齢者+湿布でも起こる可能性があります。NSAIDs 貼付剤を貼ってもいいが、気をつけないとダメとキチンと患者に話をしないとなりません。

ある患者が、岩盤浴に行ったら脱水になり急性腎障害を起しました。なぜ岩盤浴なんかに行ったか聞くと、医者に痩せろと言われたから岩盤浴に行ったと判明しました。

ARB、ACEI 服用し動脈硬化が強く腎前性腎不全を起こしやすい人は、岩盤浴やサウナに行くと簡単に急性腎障害になってしまう。危ない人(AKI を起しやすい人)を把握することが大切です。

内服薬から観察することが重要になってきます。よく目にする薬が実は腎障害を起こしてしまうので、お薬手帳はこの医療機関に行く時も絶対に持って行きなさいと患者には言っています。なぜなら紹介状だけではわからないことがたくさんあるからです。(実は他医院で多くの薬を貰っていることが多い)

以上

文責： 久光製薬株式会社 東京第3ブロック 野口 恵梨